

## 特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第14期通常総会

2019年9月23日（月祝）15:30～17:00

議事次第

於 中目黒アトラスタワー集会室

1. 開会（司会： 櫻 博子 ）
2. 理事長挨拶：清水善和
3. 総会成立の確認（報告：奥野玉紀）

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状		
正会員	8	37	25	70
比率	11.4%	52.9%	35.7%	100%

4. 議長の選出：議長 清水善和
5. 議事録署名人の選出：里見嘉英 奥野玉紀
6. 議事
  - 6.1. 第1号議案：第14期（2018年7月1日～2019年6月30日）事業報告および収支報告（奥野）
  - 6.2. 第2号議案：第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）事業計画および収支予算（奥野）
  - 6.3. 第3号議案：役員改選について（任期2019年10月1日～2021年9月30日）  
\*第1号～第3号議案について、議場に諮ったところ、指摘のあった修正を行った上で、全ての議案が満場一致で可決・承認された。
7. 質疑、意見等
8. 閉会

### 【総会特別企画】ガラパゴス写真コンテスト2019選考会

\*応募総数45点の中から、一次審査を通った25点を、総会参加の9名で選考し、最優秀賞1点、優秀賞12点を選出した。

## 第14期(2018年7月1日~2019年6月30日)事業報告

第14期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は、全てに関わった奥野以外の、理事/監事/ボランティアを記載した(敬称略)。

<p>(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業</p>
<p>① 「小笠原とガラパゴス」交流事業(8月)。小笠原から中高生5名と小笠原自然文化研究所代表理事堀越さんらが、ガラパゴスを訪問。トマスデベルランガ高校(私立の英語教育学校)とガラパゴス高校(国立)で交流。企画、CDFとの調整、同行(赤間)、報告会協力などJAGAで行う。担当:波形、赤間、</p> <p>② 「ガラパゴス写真コンテスト2018」開催(9月)。応募作品数約50点。ガラパゴスの高校生(15才、16才)も応募。選考は、総会特別企画として、参加者の投票にて最優秀賞1点、優秀賞12点を決定。優秀賞6点に輝いたガラパゴスの高校生が所属する写真クラブに100ドルを寄附した。</p> <p>③ 「ガラパゴスカレンダー2019」制作・頒布。写真コンテスト優秀賞作品を採用。11月下旬に500部納品、発送開始。寄附の特典として頒布207部、会員配布130部、進呈約100部(ダーウィン研究所25部、写真クラブ10部など)。手元残約50部。日エク100周年&amp;小笠原返還50周年事業で、訪問先などで多くを進呈した。担当:里見、飯崎</p> <p>④ 日本エクアドル外交関係樹立100周年関連。エクアドル大統領レセプション(9月)、記念イベント&amp;パネル展示@国分寺カフェスロー(10月)、記念事業実行委員会会議参加、報告書のとりまとめ、などに出席・担当した。</p> <p>⑤ ペンギン基金セミナー講師(9月)担当:飯崎</p> <p>⑥ 藤原ナチュラルヒストリー振興財団講演会@科博にて、奥野講演(11月)</p> <p>⑦ 東京オリパラに向けた都の「世界ともだちプロジェクト」で世界の国を知る一環として、エクアドル大使館と一緒に、品川区城南小学校にてエクアドルとガラパゴスについて奥野講演。</p> <p>⑧ JAGA ツアー企画(実施は2019年8月)。ビーチでの清掃活動を組み込む。担当:波形</p> <p>⑨ 経団連自然保護協議会視察支援(実施は2019年10月)。担当:波形、赤間</p> <p>⑩ 東京都とチャールズ・ダーウィン財団の連携支援。担当:清水、真板、波形、赤間、など</p>
<p>(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業</p>
<p>① 日本テレビ「所さんの目がテン!」およびニュース番組「ZIP!」の番組制作協力・情報提供など。放送はZIP!が7月下旬の1週間柘太アナウンサーが生中継。8月には番組内で特集コーナー。「所さん…」は9月26日に収録に立ち会い台本を監修。10月7、14、21日放送。担当:波形、飯崎、里見</p> <p>② 日本テレビ「世界まる見え!テレビ特捜部」9月中旬放送回、情報提供、写真貸与。</p> <p>③ 上野動物園ゾウガメの遺伝子解析結果の論文発行。Current Herpetology 38(1)1-5, Feb. 2019</p> <p>④ 国立民族学博物館:朝枝利男(日本人で初めてガラパゴスに行った人物)の持ち帰った写真や標本画を民族博物館が保有しており、その数百枚の資料に関する情報提供や判別作業を行った。同博物館の発行する会報誌への寄稿の依頼もあった。協力:伊藤秀三長崎大学名誉教授、新木</p> <p>⑤ 「ガラパゴス植物ガイド」の編集。担当:伊藤秀三長崎大学名誉教授、里見、倉田、清水</p> <p>⑥ 無農薬栽培・フェアトレード、かつ原産地証明のあるガラパゴスコffeeについて、情報提供した。担当:高木</p> <p>⑦ SNSによる情報発信:Facebook、twitterによるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、約150記事を発信した。担当:飯崎</p> <p>⑧ メールニュース(2回)、会報(11月、5月)の発行。担当:里見、飯崎</p> <p>⑨ その他、メディアや個別の問い合わせ対応、随時。</p>
<p>(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業</p> <p>特になし。</p>
<p>(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業</p>
<p>1) <b>イサベラ島環境教育支援</b></p> <p>イサベラ島プエルトビジャミル市のハシント・ゴルディージョ学校が行っている、生徒に向けた環境教育に支援を行った。同校からは2018年3月に1名が小笠原との交流で日本を訪れていたため、8月実施の小笠原からの学生訪問時に、寄附を直接届けた。サンタクルス島では環境教育や島民への啓発活動が進んでいるが、イサベラ島では</p>

## 第14期（2018年7月1日～2019年6月30日）事業報告

遅れており、保全活動への子どもたちの参加を促す活動に役立てられるとのこと。

## 2) ガラパゴス・ベルデ 2050 支援

BESS フォレストクラブと共に支援している、ダーウィン研究所(CDF)の植生回復プロジェクト。サンクリストバル島とフロレアナ島において、植生再生事業を実施すると共に、学生や子どもたちに対する環境教育や人材育成のための活動を支援した。サンクリストバル島では、これまで閉鎖されていたCDFのサンクリストバルオフィスをリノベーションし、敷地内に高校生や国立公園局のキッズレンジャーらとネイティブ・ガーデン（在来種の庭）を作って苗を植え、メンテナンスも実施した。また専属の職員も雇用した。子どもたちがここに来て学べるよう、セミナーを開いたり、各植物についての説明看板を作り設置したりした。また国立公園局とも連携し、同局が持っている種苗施設を借り、ネイティブ植物の苗を栽培して、植生再生プロジェクトに活用した。

人口150人ほどのフロレアナ島では、島の唯一の学校であるアマソナス学校や旧ゴミ捨て場、鉱山、行政府や国立公園支所などの公共施設において、植樹した植物のモニタリング調査を継続して実施。サステナブル農業への取り組みについても、継続支援した。



（左から、植樹するキッズレンジャー、モニタリング中の高校生、普及啓発グッズの展示）

## 3) 現地活動支援

ガラパゴスの子どもたちは保護区の外に住んでいるため、自分たちの住む島の自然をあまり知らないことから、希望する子どもたちにカメラを貸し出し、写真の撮り方を教え、ガラパゴスの自然を撮影させ、自分の住む島の魅力を発見し、守る心を育てる、という取り組みを実施する高校生写真クラブを支援した。この写真クラブに所属する15、16才の子どもたちが、カレンダーの写真を撮ってくれた。

## 4) ペンギン調査支援

年に3回行われているペンギン、コバネウ、アホウドリの生態調査。今年度もペンギン基金より寄附があり、現地活動を支援した。（ただし送金は8月に行ったため、会計には反映されていない）

(5)ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業、および(6)調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7)ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

東京都は、小笠原諸島などの島嶼地域の保全を見据え、来年度チャールズ・ダーウィン財団との連携を計画している。今期はこの連携に関する協議、また小笠原などの関係諸機関との話し合いや情報交換を行った。

(8)その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

■日本エクアドル外交関係樹立100周年記念事業実行委員会の委員として、奥野が活動した。在京・在キトの大使館や外務省などの公的機関、エクアドル本土で活動する団体や個人、日本で活動するエクアドル関連の団体・企業・個人との繋がりが多くできたことから、ガラパゴスに関連する情報が多く入るようになっただけでなく、JAGAのガラパゴスの専門機関としての認知が進んだ。

■助成金：ガラパゴスと小笠原の若者交流事業を継続するため、助成金を探し、説明会などに行った。申請をして不採用になったものや、申請の段階で無理と判断したものが多く、なかなか実を結ばなかった。国際緑化推進センターの「緑の募金」は、サンクリストバル島でのガラパゴス・ベルデの活動支援で採択された（来期）。担当：里見

■その他ファンドレイジングのための活動。

【謝意】当期活動したボランティア：赤間亜希&アンドレス・ロセロ、高木一輝、飯崎晶子、および事務局長以外の理事・監事全員。（五十音順）

2018年度(第14期:2018年7月1日~2019年6月30日)活動計算書

科目	金額	備考
<b>I 経常収益</b>		
1 受取会費		
正会員受取会費	¥255,000	45名、うち複数年払9名
その他会員/サポーター受取会費	¥275,950	36名、複数年払い1名、学生1名、団体2
計	¥530,950	
2 受取寄付金		
寄付	¥216,000	会員など個人より
特典寄附	¥277,598	返礼にカレンダー、鳥類ガイド
計	¥493,598	
3 受取民間助成金		
BESSフォレストクラブ	¥2,400,000	
帝人株式会社	¥100,000	
計	¥2,500,000	
4 事業収入		
情報提供事業	¥170,000	テレビ番組等の監修費、写真使用料等
5 その他収益		
受取利息	¥111	銀行利息
<b>経常収益計</b>	<b>¥3,694,659</b>	
<b>II 経常費用</b>		
1 事業費		
(1) ガラバゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業		
印刷費	¥228,500	カレンダー印刷費
通信費	¥30,128	カレンダー送付等
交流事業費	¥13,016	小笠原とガラバゴスの交流費
消耗品費	¥4,188	カレンダー発送用封筒など
交通費	¥29,601	
会議費	¥3,070	セミナー、ボランティア会議会場費等
計	¥308,503	
(2) ガラバゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業		
インターネット費	¥12,960	ホームページのサーバー代
印刷費	¥30,875	会報印刷
通信費	¥3,363	会報発送など
資料費	¥1,512	
消耗品費	¥6,232	
交通費	¥11,131	
計	¥66,073	
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	¥0	
(4) ガラバゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業		
1) イサベラ島環境教育支援	¥113,710	プエルトビジャミル市学校支援(\$1000)
2) ガラバゴス・ベルデ2050	¥2,283,511	BESSフォレストクラブ支援事業(\$20,000)
3) 現地活動支援	¥11,620	高校生の写真クラブ支援(\$100)
4) ペンギン調査支援	¥0	調査は今年度中にあったが送金を2019年8月に行った為次年度に参入。
計	¥2,408,841	
(5) ガラバゴスに関連する国際協力に係る事業	¥0	
(6) ガラバゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業	¥0	
(7) ガラバゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業	¥0	
事業費計	¥2,783,417	
2 管理費		
(1) 人件費 事務局人件費	¥640,000	事務局スタッフ1名
(2) その他経費		
シェアオフィス利用費	¥97,900	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
通信費	¥59,510	事務局携帯電話契約料等
消耗品費	¥10,784	プリンターインク等
事務手続き費	¥6,596	振込手数料等
NPO保険費	¥7,850	
交通費	¥51,501	事務局交通費(打合せ等)
会議費	¥18,833	総会会場費等
雑費	¥1,274	
管理費計	¥894,248	
<b>経常費用計</b>	<b>¥3,677,665</b>	
<b>当期経常増減額</b>	<b>¥16,994</b>	
当期正味財産増減額	¥16,994	
前期繰越正味財産額	¥3,732,477	
次期繰越正味財産額	¥3,749,471	

## 2018年度 計算書の注記

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

## 1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

## (1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

## 2.事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	(1)環境教育 普及啓発事	(2)情報提供 収集事業	(4)保全支援 事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益						
1.受取会費					530,950	530,950
2.受取寄附金	277,598		216,000	493,598		493,598
3.受取助成金等	100,000		2,300,000	2,400,000	100,000	2,500,000
4.事業収益		70,000		70,000	100,000	170,000
5.その他収益					111	111
経常収益計	377,598	70,000	2,516,000	2,963,598	731,061	3,694,659
II 経常費用						
(1) 人件費						
現地スタッフ給付金 (保全支援活動)			2,408,841	2,408,841		2,408,841
事務局人件費					640,000	640,000
(2) その他経費						
印刷費	228,500	30,875		259,375		
通信費	30,128	3,363		33,491	59,510	93,001
交通費	29,601	11,131		40,732	51,501	92,233
交流事業費	13,016			13,016		13,016
インターネット費		12,960		12,960		12,960
会議費	3,070			3,070	18,833	21,903
資料費		1,512		1,512		1,512
オフィス利用料					97,900	97,900
消耗品・備品費	4,188	6,232		10,420	10,784	21,204
手続き費+保険費					14,446	14,446
雑費					1,274	1,274
経常費用計	308,503	66,073	2,408,841	2,783,417	894,248	3,677,665
(事業別)当期経常増減額	69,095	3,927	107,159	180,181	-163,187	16,994

## 3.使途が制約された寄付金等の内訳

使途が制約された寄付金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。

当法人の正味財産は3,749,471円ですが、そのうち使途が制約された財産はありません。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
BESSフォレストクラブ 支援協賛金	0	2,400,000	2,400,000	0	環境保全事業支援協賛金としてBESSフォレストクラブより交付を受けた240万円の全額を、対象事業に使用しました。

## 4.役員及びその近親者との取引内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	うち、役員及び近親者との取引
(活動計算書) (収益)寄附金	493598	131200
(費用)管理費 事務局人件費	640000	640000
活動計算書計	1133598	771200

第14期(2018年7月1日～2019年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2019年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1 流動資産		
現金預金	3,553,253	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	1,113,318	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		4,764,471
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
<b>資産合計</b>		<b>4,764,471</b>
<b>II 負債の部</b>		
1 流動負債		
前受会費	15,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	1,000,000	
流動負債合計		1,015,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
<b>負債合計</b>		<b>1,015,000</b>
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産		3,732,477
当期正味財産増減額		16,994
<b>正味財産合計</b>		<b>3,749,471</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>		<b>4,764,471</b>

第14期(2018年7月1日～2019年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計財産目録

2019年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	5,317	
普通預金 みずほ銀行青山支店	1,365,601	
普通預金 三井住友銀行渋谷駅前支店	178,502	
郵便振替口座 ゆうちょ銀行	1,680,710	
ジャパンネット銀行	323,123	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	1,113,318	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		4,764,471
2 固定資産		
土地 所在 m <sup>2</sup>	0	
建物 所在 m <sup>2</sup>	0	
車両運搬具 乗用車 台	0	
固定資産合計		0
資産合計		4,764,471
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	15,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	1,000,000	
流動負債合計		1,015,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		1,015,000
正味財産		3,749,471

## 第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）事業計画

第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

**(1) 環境教育・普及啓発事業**

2018年度に実施した、日本とガラパゴスを繋げる様々な活動により、関係する人や団体との繋がりが増え、事業の依頼も多くなった。JAGAでは引き続きこの機会を捉えて、ガラパゴスやその保全、そしてJAGAの活動についてより多くの方に知ってもらえるような事業を積極的に行う。

これと関連して、自然管理や観光管理について、ガラパゴスの事例を紹介することで日本の自然保護や世界自然遺産地域の管理に資する情報を提供する。保全への関心や理解が深まることも期待する。

- \* ガラパゴスと小笠原の人的交流、情報交換を行う。小笠原に関する公的機関（国・都・村）などの連携を密にし、継続した関係構築に努める。
- \* ガラパゴスに関連する団体（営利非営利関係なく）との連携を深め、双方に利益をもたらす活動を積極的に推し進める。
- \* 「ガラパゴス写真コンテスト 2019」開催、および「ガラパゴスカレンダー2020」制作、発行。ファンドレイジング／普及ツールとしても活用する。
- \* JAGA設立15周年を記念したイベントを検討する。
- \* その他、教育機関等での講演、講師の派遣、出版物への原稿執筆や翻訳、監修など随時対応。

**(2) 情報収集提供事業**

ガラパゴスに関する正しい情報を的確に提供する。

- \* 「ガラパゴス植物ガイド」の制作・印刷。伊藤秀三長崎大学名誉教授の協力を得て、観光用に持ち運びができるようなガラパゴスの植物に関する一般向けの簡易ガイドを出版する。
- \* ガラパゴスの自然管理および観光管理に関するウェブページの作成：日本のエコツーリズムや環境保全に対する情報提供など、関心やニーズが高い。
- \* 「ガラパゴスのふしぎ」に代わる書籍の発行。
- \* インターネットを活用した情報提供に力を入れる。（Facebookやメルマガ、ホームページなど）
- \* 会報発行を継続する。（年2号）
- \* 教育・科学機関、科学番組への協力・監修、マスコミ対応、情報・写真提供など、随時。

**(3) 環境問題全般情報収集提供事業**

近年関心の高まる海洋廃プラ、地球温暖化、リサイクルなどについて、情報収集・提供する。

**(4) ガラパゴスの環境保全活動の支援**

昨年度に引き続き海鳥保全のための生態調査支援（ペンギン基金支援事業）、スカレシアの森支援（BESSフォレストクラブ支援事業）、ガラパゴス・ベルデ2050（緑の募金事業）、環境教育や人材育成のための活動支援、ダーウィン研究所活動支援（会員・一般寄附支援事業）を行う。

経常的な支援に加え、現地のニーズについて随時連絡を取り、必要などころに必要な支援を行う。

**(5) 国際協力事業**

チャールズ・ダーウィン財団とJICAの提携を仲介する。（市街地の上下水道）

**(6) 調査研究支援事業**

需要があれば、支援を行う。（日本人研究者、大学院生の派遣など）

**(7) 現地諸機関の運営支援事業**

- ・チャールズ・ダーウィン財団運営支援：日本企業に自社製品提供などの支援をお願いする。

**(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業**

- ・企業への働きかけを強化する。ガラパゴスに進出している日本製品を提供している日本企業、および旅行代理店に対して、保全支援に協力をお願いする。
- ・ガラパゴスに行った旅行者へのアプローチについても検討する。
- ・寄附及び寄附者管理のクラウドツールである「コングラント」の導入。



2019年度 活動予算書

第15期(2019年7月1日から2020年6月30日まで)

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目	金額	備考
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	300,000	60人
協会員/サポーター受取会費	350,000	40人+3団体
計	650,000	
2 受取寄付金		
受取寄付金	550,000	個人や団体
3. 受取民間助成金		
受取民間助成金	1,000,000	BESSフォレストクラブ支援協賛金(決定)
その他助成金	100,000	企業協賛金
計	1,380,000	緑の募金(決定)
4. 事業収益		
普及啓発事業	200,000	日本エクアドル外交関係樹立100周年事業受託事業
情報提供事業	500,000	テレビ・出版支援事業
現地機関支援事業	3,400,000	東京都受託事業(決定)
計	4,100,000	
5. その他収益		
受取利息	100	銀行利息
経常収益計	7,780,100	
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) ガラパゴスに関する環境教育・普及啓発事業		
カレンダー事業費	300,000	デザイン、印刷、発送等
交流事業費	50,000	日本とガラパゴスを繋ぐ事業
交通費	50,000	
会議費	20,000	
計	420,000	
(2) ガラパゴスに関する情報収集提供事業		
インターネット事業費	30,000	ホームページ更新、サーバー代
植物ガイド事業費	300,000	植物ガイド印刷費等
会報事業費	50,000	会報印刷・郵送費等
計	380,000	
(3) 環境問題全般に関する情報収集提供事業		
その他	0	
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の支援事業		
① ペンギン調査費助成	100,000	ペンギン基金等支援事業
② スカレンシア保全プロジェクト	1,000,000	BESSフォレストクラブとの共同支援事業
③ Galapagos Verde 2050支援プロジェクト	1,200,000	緑の募金助成金
④ ダーウィン研究所運営支援	100,000	会員からの寄附等
計	2,300,000	
(5) ガラパゴスに関する国際協力事業		
その他	0	
(6) ガラパゴスに関する調査研究関連支援事業		
その他	0	
(7) ガラパゴスに関する諸機関の運営支援事業		
受託事業	3,400,000	東京都受託事業(決定)
(8) 予備費	100,000	
事業費計	6,600,000	
2. 管理費		
(1) 人件費 事務局人件費	850,000	
(2) その他経費		
シェアオフィス利用費	100,000	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
通信費	60,000	郵送料、電話使用料、など
インターネット費	50,000	寄附管理ツール導入費
消耗品費	20,000	コピー用紙、ラベル、インクなど
事務手続き費	10,000	振込手数料等
NPO保険費	10,000	
交通費	50,000	事務局交通費
会議費	20,000	総会・理事会会場費等
雑費	10,100	予備費
管理費計	1,180,100	
経常費用計	7,780,100	
当期正味財産増減額	0	
前期繰越正味財産額	3,749,471	
次期繰越正味財産額	3,749,471	

## 役員改選（2019年10月1日～2021年9月30日）

理事会より、次期役員を選任に関して、以下の提案および報告を行う（五十音順・敬称略）。

## 1. 理事の重任（7名）、および新任（2名）

清水 善和（理事長）

眞板 昭夫（副理事長）

奥野 玉紀

海津 ゆりえ

可知 直毅（新任）

櫻 博子

里見 嘉英（新任）

西原 弘

矢ヶ部（倉田） 薫子

※これまで理事を務めた新木秀和氏については、任期満了に伴い退任。

※これまで理事を務めた波形克則氏については、任期満了に伴い退任。監事就任を提案する。

## 2. 監事の重任（1名）、および新任（1名）

枝松 克巳

波形 克則（新任）

※これまで監事を務めた里見嘉英氏については、任期満了に伴い退任。理事就任を提案する。

## 【備考：当会定款の規定（抜粋）】

（役員の種類及び定数）

第13条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事5人以上12人以内

(2) 監事2人以上4人以内

2 理事のうち1人を理事長、1人以上3人以内を副理事長とする。

（選任等）

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 （略）

4 （略）

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

以上